

## 2級 第2予想 解答・解説

第1問 (20点)

解答

	仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 電子記録債権売却損	331,520 4,480	電子記録債権	336,000
2	未収入金 有価証券売却損	408,000 12,000	売買目的有価証券	420,000
3	営業外支払手形 支払利息	560,000 22,400	当座預金 前払利息	560,000 22,400
4	当座預金 創立費	22,500,000 250,000	資本金 資本準備金 現金	13,500,000 9,000,000 250,000
5	売掛金 売上原価	300,000 225,000	売上 商	300,000 225,000

A: 必ず取りたい

O: 問題から写すだけです

B: できれば正解したい

★: 得点自体ムズカシイ

仕訳1組につき4点 合計20点

第2問 (20点)

解答

問1

銀行勘定調整表

平成28年3月31日

(単位:円)

企業の当座預金勘定の残高	回 ( 2,548,800 )	銀行の残高証明書の残高	回 ( 3,027,600 )
加算: [ ① ] 回 ★( 336,000 )		加算: [ ② ] 回 ★( 120,000 )	
減算: [ ③ ] 回 ★( 147,600 )		減算: [ ④ ] 回 ★( 410,400 )	
	( 2,737,200 )	回 ★	( 2,737,200 )

問2

	企業側の修正仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	回 ★ 336,000	未払金	336,000
②	仕訳なし	回 ★		
③	現金	回 ★ 147,600	当座預金	147,600
④	仕訳なし	回 ★		

問3

現金過不足の金額 ¥ 回 ★ 18,800 (過剰・不足)

(注) ( ) 内の「過剰」または「不足」を○で囲むこと。

A: 必ず取りたい

O: 問題から写すだけです

B: できれば正解したい

★: 得点自体ムズカシイ

★ 1つにつき2点 合計20点

## 第3問 (20点)

## 解 答

損 益 計 算 書		
	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日	(単位:円)
① I 売 上 高		( □ ★ 1,500,000 )
II 売 上 原 価		
⑤ 1. 期首商品棚卸高	( □ 31,000 )	
⑤ 2. 当期商品仕入高	( □ 720,000 )	
合 計	( 751,000 )	
⑤ 3. 期末商品棚卸高	( □ 25,000 )	
差 引	( 726,000 )	
⑤ 4. 棚 卸 減 耗 損	( □ ★ 2,500 )	
⑤ 5. (商 品 評 価 損)	( □ ★ 2,100 )	( 730,600 )
売 上 総 利 益		( 769,400 )
III 販売費及び一般管理費		
⑦ 1. 給 料	( □ 202,000 )	
⑧ 2. 保 険 料	( □ ★ 27,000 )	
⑥ 3. 減 價 償 却 費	( □ ★ 102,600 )	
③ 4. 貸倒引当金繰入	( □ ★ 2,900 )	( 334,500 )
( 営 業 利 益 )		( 434,900 )
IV 営 業 外 収 益		
④ 1. 有価証券利息	( □ ★ 2,000 )	
④ 2. 有価証券評価益	( □ ★ 3,500 )	
⑨ 3. 受 取 利 息	( □ ★ 1,500 )	( 7,000 )
V 営 業 外 費 用		
⑩ 1. 支 払 利 息	( □ 11,500 )	
⑨ 2. 貸倒引当金繰入	( □ ★ 3,000 )	( 14,500 )
( 経 常 利 益 )		( 427,400 )
VI 特 別 利 益		
1. 固定資産売却益		( □ 6,000 )
VII 特 別 損 失		
1. 災 害 損 失		( □ 2,400 )
税引前当期純利益		( ☠ 431,000 )
⑪ 法人税、住民税及び事業税		( ☠ 129,300 )
(当 期 純 利 益)		( ☠ 301,700 )

\* 上記の○番号は、解説の番号と対応しています。

Ⓐ: 必ず取りたい

Ⓑ: 問題から写すだけです

Ⓒ: できれば正解したい

Ⓓ: 得点自体ムズカシイ

★ 1つにつき2点 合計20点

#### 第4問 (20点)

##### 解 答

材 料		
5 / 1 月 初 有 高	550,000	5 / 31 消 費 高 (A★3,960,000)
5 / 31 仕 入 高	(A★3,855,000)	// 原 価 差 異 (A★ 20,000)
		// 月 末 有 高 425,000
	( 4,405,000 )	( 4,405,000 )

製 造 間 接 費		
5 / 31 間接材料費 (A★ 110,000)	5 / 31 予定配賦額 (A★1,500,000)	
// 間接労務費 900,000	// 原 価 差 異 15,000	
// 間接経費 505,000		
( 1,515,000 )	( 1,515,000 )	

仕 掛 品		
5 / 1 月 初 有 高 (B★1,400,000)	5 / 31 完 成 高 7,500,000	
5 / 31 直接材料費 (B★3,850,000)	// 月 末 有 高 2,500,000	
// 直接労務費 3,250,000		
// 製造間接費 (A★1,500,000)		
( 10,000,000 )	( 10,000,000 )	

買 掛 金		
5 / 31 現金支払い (A★2,600,000)	5 / 1 月 初 残 高 540,000	
// 月 末 残 高 300,000	5 / 31 材料仕入高 (A★2,360,000)	
( 2,900,000 )	( 2,900,000 )	

A : 必ず取りたい  
 B : できれば正解したい

O : 問題から写すだけです  
 A : 得点 자체ムズカシイ

★ 1つにつき 2点 合計20点

#### 第5問 (20点)

##### 解 答

A社は直接原価計算方式の損益計算書を採用している。直接原価計算方式の損益計算では、原価（製造原価、販売費および一般管理費）を（①A 变動費）と（②A 固定費）とに分解し、売上高からまず①を差し引いて（③A 貢献利益）を計算し、③から②を差し引いて営業利益を計算する。

A社の直接原価計算方式の営業利益は1,250,000千円であるが、全部原価計算方式によると営業利益は（④B 1,350,000）千円となる。この営業利益の差は、全部原価計算方式において期末棚卸資産に含まれる（⑤A 固定費）の分である。

A社の貢献利益率は（⑥A 40）%、損益分岐点販売量は（⑦A 7,500）台である。損益分岐点の販売量と実際の販売量との差を安全余裕度というが、A社の安全余裕度は（⑧B 12,500）台である。

A社の売上高営業利益率は25%である。売上高営業利益率30%の営業利益を達成するために必要だった売上高は（⑨A 7,500,000）千円であり、そのときの③は（⑩A 3,000,000）千円である。

A : 必ず取りたい  
 B : できれば正解したい

O : 問題から写すだけです  
 A : 得点 자체ムズカシイ

①～⑩ 各2点 合計20点